

発熱と貧血を主訴とする2歳女児。肝臓3横指触知、腫瘍は触知せず。CRP 13.7, Hb 8.4, LDH 4952L, NSE83.2, フェリチン 199, 尿中 VMA・HVA 正常。画像上右副腎原発の石灰化を伴う腫瘤を認めた。神経芽細胞腫 国際病期分類 stage3 と診断, N-myc の増幅を認めた。6回の化学療法後末梢血幹細胞移植を行った。その後術中照射を併用した腫瘍摘出術を行い治療終了後6ヶ月寛解維持している。

22. 当院で経験した、4例の造血幹細胞移植についての検討

東田 正陽, 植村 貞繁, 岩村 喜信
中川 賀清
(川崎医科大学小児外科)
川崎 浩三
(同 小児科)
青山 興司

(独立行政法人国立病院機構岡山医療センター)

2003年~2005年の間に当院にて行った4例の造血幹細胞移植を報告した。症例1・4は神経芽腫 stage4, 症例2は肺芽腫 type II, 症例3はMRTK stage4, 症例1~3はauto-PBSCT(症例3は2回移植), 症例4はauto-BMTにて移植を施行。症例1は麻疹・抗酸菌感染症, 症例2~4は移植中~移植後に水痘带状疱疹に罹患。症例1,2,4は無病生存, 症例3は再発を認めるが生存中である。

第48回東海小児がん研究会

日 時: 2005年8月20日(土)

場 所: 愛知県医師会館 地下1階講堂

世話人: 長谷川史郎(静岡県立こども病院 外科)

【I】病理検討

1. B細胞性悪性リンパ腫の治療経過中に、T細胞性悪性リンパ腫の肺浸潤をきたした1例

岡田 直樹, 奈良 妙美, 西尾 信博
高嶋 能文, 堀越 泰雄, 三間屋純一

(静岡県立こども病院 血液腫瘍科)

浜崎 豊

(同 臨床病理科)

植田 高弘, 守田 貞利, 関戸 康友

(静岡医療センター)

【症例】2歳, 男児。高IgA血症と免疫異常を指摘されていた。2004年11月に左下眼瞼腫瘤を認め, 生検の結果, CD20, CD79, EBウイルス染色陽性でdiffuse large B cell lymphomaと診断し, 化学療法を開始。翌年1月にメソトレキセート(MTX)大量療法を3度行った後より, 喘鳴を認めた。MTXによる薬剤性肺障害を考え, ステロイドパルス療法を行った。しかし, 治療効果は乏しく, 悪性リンパ腫の肺浸潤も考え, シクロフォスファミドの投与を行った。しかし, 6月上旬に呼吸状態が悪化し, 亡くなったが, 肺生検の結果, リンパ系の異型幼若細胞の浸潤が目立ち, 免疫染色ではCD3(±), CD20(-), EBウイルス染色陽性で, T細胞リンパ腫の肺浸潤を考えた。

【まとめ】EBウイルス染色がともに陽性で, 高IgA血症という免疫不全を背景としたEBウイルス感染による悪性リンパ腫が考えられた。

2. Melanotic neuroectodermal tumor の1乳幼児例

中西 恭一, 松田 和之, 熊本 忠史
出口 陸生, 堀 浩樹, 東 英一
駒田 美弘

(三重大学医学部附属病院小児科)

松原 年生

(同 脳神経外科)

今井 裕, 白石 泰三

(同 病理科第二)

浜崎 豊

(静岡県立こども病院臨床病理科)

GA39W, 出生体重2964g, 正常分娩で出生。生後2週間より右側頭部の腫瘤に気付かれ, 増大してきたため, 生後1カ月時に当科精査入院。入院時, 弾性硬の可動性に乏しい右側頭部の腫瘤を認めたが, その他理学所見は異常なし。血液検査, 尿検査は異常なかった。